

2026 年度

自己点検評価 報告書

【評価対象期間】 自：2025 年 4 月 1 日
至：2026 年 3 月 31 日
【評価基準日】 2026 年 4 月 1 日

学校法人ハリウッド美容専門学園
ハリウッドワールド美容専門学校

この自己点検評価報告書は、ハリウッドワールド美容専門学校 の 2025 年度（令和 7 年度）の自己点検評価活動の結果を記したものである。本報告書は、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」（令和 8 年 3 月）及び改正学校教育法（令和 6 年法律第 50 号）に基づき作成している。

作成日 2026 年 4 月 30 日

校 長 丸林 愛

自己点検・評価責任者

管理部長 山田 裕貴

目 次

| | |
|-----------------------|-------|
| I 建学の精神・教育目標（人材育成像） | - 2 - |
| II 重点項目 | - 3 - |
| III 自己点検評価（基準項目） | - 4 - |
| 項目 1 教育理念・目的・目標 | - 4 - |
| 項目 2 教育課程、教育の実施、学修成果 | - 5 - |
| 項目 3 学生の受入れ、学生支援 | - 6 - |
| 項目 4 教育実施組織・教員 | - 6 - |
| 項目 5 教育環境 | - 8 - |
| 項目 6 教育活動の基盤と改善・向上の取組 | - 8 - |

【評価結果の区分】

3：基準を上回り、特筆すべき取組等を行っている

2：基準をおおむね満たしている

1：基準を満たしておらず、改善が必要

I 建学の精神・教育目標（人材育成像）

建学の精神

「真心をもってよしとする」

建学の精神を基に社会に貢献する、専門的な、高度な技術、知識と他者に真心をもって接する有能な人材を育成する。

教育目標

1. 真心ある人材
2. 挨拶・返事・掃除（靴を揃える）
3. 国家試験合格
4. 専門知識と技術の修得
5. 社会人・専門職業人としてのプロフェッショナリズムを身につける

ディプロマ・ポリシー

本校では、建学の精神、教育目標を踏まえ、以下のような能力を備えた生徒に対し、卒業を認定する。

1. 常に真心を中心にもち、高い人間性を備えた生徒
2. 自身の入学の目的を達成し得る、技能と視座を獲得した生徒
3. 専門職業人として、社会に貢献し、業界の高度化に寄与できる生徒

カリキュラム・ポリシー

本校では、美容師養成施設指定規則および指導要領、理容師養成施設指定規則および指導要領、ならびに教育目標に則り、3つの観点（専門技能教育・実践教育・専門職業人教育）から学生が体系的かつ主体的に学習できるようカリキュラムを編成し、これに従って教育を実践する。

1. 専門技能教育においては、美容師養成施設指定規則または理容師養成施設指定規則による「必修科目」、ならびに「選択科目」を通して卒業認定に掲げる各能力を身につけることができるよう、科目ごとの到達目標を明確にし、評価することで、知識と技術の固い基盤をもった専門家を養成する。
2. 実践教育においては、地域住民やお客様と交流する実践授業を多分に取り入れながら、専門技能教育で学び得た知識や技術を応用して現場に適応させていく思考が深く身についた省察的実践家を養成する。
3. 専門職業人教育においては、単なる技術者の育成ではなく、高度な専門性を持ち、プロフェッショナリズム（高い倫理観や職業規範）を涵養させるためのプログラムを通して、業界の質を高め、高い視座から変革を率いていく人材を養成する。

アドミッション・ポリシー

本校の求める人物像は以下の通りである。

1. 物事を素直に受け入れて、すぐに実行することができる真心のある人物
2. 心身ともに健康であり、自己管理が十分にできる人物
3. 学びへの好奇心と、上昇志向を備えた人物

Ⅱ 重点項目

- ① 学校の教育理念、教育目標（人材育成像）の見直しと周知。
- ② 教育活動の見直し：効果的な授業運営に向けた検討。
- ③ 教員の資質向上に向けた取り組み：計画的な研修参加、教員の資格要件の取得。
- ④ 教育環境の整備：安全管理に対する意識向上。

Ⅲ 自己点検評価（基準項目）

本校は専門課程を置く専修学校として、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」（令和 8 年 3 月）に沿って評価項目を設定し、各項目について 3 段階（3・2・1）で自己点検評価を行った。

項目 1 教育理念・目的・目標

| 小項目 | 評価の基準 | 評価結果 |
|-----|--|------|
| 1 | 教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。 | 3 |

【評価結果の分析】

建学の精神「真心をもってよしとする」を中心に、法人の理念、学校の教育理念、各学科の教育目的・育成人材像を明確に定めている。教育方針「よく学び、よく遊び、いつも感動」のもと、学生が決意した「入学の目的」を達成するべく教育実践を行っている。

【今後の改善方策】

理念や行動規範を含めたソフトスキルの育成は可視化や腹落ちがしづらい部分が多いため、現代の学生がセンセイメイキングできる手法で伝え、2 年間の学校生活の中で建学の精神や自己の新たな価値観を涵養していく。卒業生に学校生活やキャリアを振り返ってもらった動画を作成し、在学生及び入学前の希望者へ伝える。創立 70 周年に向けて、建学の精神が各々の人生にどのような影響を与えているかをインタビューを通して探り、理念のストーリー化を実施していく。

項目 2 教育課程、教育の実施、学修成果

| 小項目 | 評価の基準 | 評価結果 |
|-----|---|------|
| 1 | 学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成した上で、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。 | 3 |
| 2 | 授業科目内容に応じ、講義・演習・実験・実習又は実技など適切な授業形態で教育が実施され、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。（企業等と連携した実習・演習等を含む） | 2 |
| 3 | 学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。 | 2 |
| 4 | 卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む）についての目標及び学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。 | 3 |

【評価結果の分析】

カリキュラム・ポリシーに基づき、3つの観点（専門技能教育・実践教育・専門職業人教育）から学生が体系的かつ主体的に学習できるよう授業科目を配置している。また、校舎内にビューティーサロン、エステサロン、ブライダルサロンを併設し、企業・サロンと連携した実践教育を日々行っている。5学期制の特徴を活かし、見極めテスト等の成績をもとに学習が遅れている学生にも補習でバックアップを行い、各学期で設定した成績評価基準への到達を管理・指導している。

学修成果については、2025年度の美容師国家試験で美容学科の合格率90.5%、理容学科の合格率100%を達成し、就職希望者は東京・大阪等を含む全国の有名サロンに就職するなど就職率100%を達成した。各種大会でも全国理容美容学生技術大会の全国大会ではまつ毛エクステンション部門で金賞（九州勢初の優勝）、理容ワインディング部門で銀賞、銅賞、美容ワインディング部門で銀賞、POWER OF BEAUTY 2025では、ワインディング部門でGOLD PRIZEとSILVER PRIZE、フォト着物トレンドアレンジ部門でGOLD PRIZE、SILVER PRIZEを受賞するなど、輝かしい成果を挙げている。

さらに当年度は、韓国GPFと連携した美容の国際大会を当校を舞台として日本で初開催し、学生が世界の同世代と技術を競う機会を設けるとともに、地域の国際的な認知向上につなげることができた。

【今後の改善方策】

学生からのアンケート等のフィードバックの仕組みを整え、教育の高度化を進める。学生自身が到達度を自ら確認し自己調整ができる教育システムを整備する。

新しい技術や業界の変化に対応するため、サロンと協力したデモンストレーション型授業を拡充する。教育効果の高いコンテストを選別して出場し、学校主宰のコンテストを多数開催して学生のモチベーション維持と目的達成のマイルストーンとする。

項目3 学生の受入れ、学生支援

| 小項目 | 評価の基準 | 評価結果 |
|-----|---|------|
| 1 | 入学者の受け入れ方針・入学選考基準・方法を定めて入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い合否を決定していること。学生の受入れは入学定員に基づき適正に行っていること。 | 2 |
| 2 | 学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組み、シラバスの活用等により自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。 | 2 |
| 3 | 適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など多様な学生に対する支援を行っていること。 | 3 |
| 4 | カウンセラーの配置・相談室の設置等の相談環境、学習継続困難者への対応、心身の健康管理体制、経済的側面への支援体制、キャリア・就職支援体制を整備し、適切に運用していること。 | 3 |

【評価結果の分析】

学生募集では九州・沖縄はもとより関東・関西を含む全国から多数の学生が入学している。入学者選抜では受験者全員に面接試験を行い、アドミッション・ポリシーに該当する候補者かどうかを見極め、公正で適切な選抜を行っている。

学生支援では、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者などに対して、学校生活の枠組みを超えた生活面でのサポートまで親身に行っている。また、奨学金の申請対応を丁寧に行い、特待生枠を広く準備しているほか、寮についても地域のオーナー様の協力により安心して生活できる費用で提供している。さらに当年度はカウンセラーを増員して配置・相談室の設置により学生相談に対応し、学習継続が困難な学生にも適切に対応している。

【今後の改善方策】

学生の学力や学習状況に応じた効果的な学習支援・補修授業を拡充していくために、少人数制・段階制授業の導入や、担任との面談により早い段階で学習継続困難者の対応を進めていく。

項目4 教育実施組織・教員

| 小項目 | 評価の基準 | 評価結果 |
|-----|---|------|
| 1 | 教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するための基準等（教員の採用基準等）を整備し、適正に運用していること。 | 2 |
| 2 | 学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担・責任体制を規程等で定め、教員間で連携・協力体制を構築していること。 | 3 |

| 小項目 | 評価の基準 | 評価結果 |
|-----|--|------|
| 3 | 学校の教育活動の改善・工夫を行うFD（Faculty Development）などの取組や、教員の研究活動・自己啓発等への支援を企業等と連携して組織的にやっていること。 | 2 |

【評価結果の分析】

法令に則りかつ学校の理念・目的の達成に必要な教育課程の種類・分類・学生数を考慮し、必要な教員組織を構築している。教務部長、学年主任、副主任、担任、副担任などの役割に加え、各学生寮の指導担当教員や部活動の顧問などの役割も明確にし、教育体制を整備している。

また、教職員の能力開発のために、理容師美容師養成施設教職員研修協議会が主催する研修に教員を派遣するほか、学外から講師を招き、幅広い理美容技術の習得を実施するとともに、企業等と連携しながら幅広い知識と技能を持った教員の養成を目指している。

【今後の改善方策】

教育活動のさらなる充実のため、オンデマンドコンテンツを利用した教員の能力開発や、AI を活用した業務支援コンテンツの開発を行い、教職員の業務効率を向上させていく。

項目5 教育環境

| 小項目 | 評価の基準 | 評価結果 |
|-----|--|------|
| 1 | 教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備え、学習支援のための施設（自習室等）、休憩・食事のためのスペース、図書室を整備していること。 | 3 |
| 2 | 学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、安全対策を適切に行うとともに、火災の発生や防災に関する組織体制を整備し適切に運営していること。 | 2 |
| 3 | 施設・設備等の日常点検・定期点検・補修等を適切に行い、施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め適切に実施していること。 | 2 |

【評価結果の分析】

毎年の設備投資により快適かつ高度な教育が行われるよう教育環境を整備している。総敷地面積約10,000坪の広大な土地を活用し、4つの充実した校舎で学生がのびのびと活動できる環境を提供している。2022年度の新校舎オープンによりサテライトができ、BCP対策としても活用可能となっている。また、芝生を全面に敷いた校内パークを開設し、学生が休憩や食事など自由に利用可能なスペースとして機能している。図書室を設置し、専攻分野に必要な専門書・参考図書を配架しているほか、市立図書館と連携し図書の拡充を図っている。

【今後の改善方策】

学校安全計画や危機管理ガイドラインを実効性のあるものとしていくために、災害時の運用などを細かく制度化していく。また、老朽化している施設・設備について、複数年のメンテナンス計画を立てて修繕実施できるようにする。

項目6 教育活動の基盤と改善・向上の取組

| 小項目 | 評価の基準 | 評価結果 |
|-----|--|------|
| 1 | 策定している中期事業計画に教育目的・教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられ、教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。 | 2 |
| 2 | 学校運営の組織体制を整備し、職業教育に関するマネジメントにおける責任体制を含め適切な運営が行われ、法令・専修学校設置基準等を遵守していること。 | 2 |
| 3 | 学校関係者評価委員会等外部からの意見を反映し、学校評価を実施して結果及び改善状況を公表するとともに、評価結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。 | 2 |
| 4 | 教育活動・学修成果・学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表し、教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連教育機関・産業界・地域社会等 | 3 |

| 小項目 | 評価の基準 | 評価結果 |
|-----|----------------------|------|
| | からの理解を得るよう取り組んでいること。 | |

【評価結果の分析】

財務基盤としては、借入金に頼らず、安定的かつ継続的に学校運営を行うために必要な流動資産を十分に蓄えており、毎年、教育環境の整備に必要な設備投資をしながらも次期繰越金が十分に残るよう経営を行っている。学校運営にあたっては、年度始めに基本方針を全職員に発表し、責任体制を整備・見直ししており、各職員が自身の役割に落とし込んだ目標を設定しながら適切な運営を行っている。

評価については、自己点検評価及び学校関係者評価を実施し、学校行事に多くの関係者に参加いただきながら質保証のためのご意見を得ている。ワーキングアカデミーコースの開始式においては、協力サロンの出席を得て連携を図り、地域の寮オーナー様からもオーナー会を通じて随時意見を頂戴している。また、社会貢献では、柳川地域に密着し学校周辺の美化活動、各地域イベントでの美容セラピー、シニアファッションショー・キッズヘアショー、ローターアクトクラブのボランティア活動等を実施。地域社会に必要とされる専門学校として立場を確立することができている。

【今後の改善方策】

長期的なインフレを見据え、安定的かつ確実な資産の運用を引き続き検討し、盤石な財務基盤を整備していく。また、中期事業計画への教育目的・目標の具体的な位置付けを強化する。

対外活動では、産学官を問わず幅広い団体と連携した多様なイベントを通じて、学生の技術力向上はもとより、地域との共生意識の醸成と地域の発展に資する全人教育を一層推進していく。